

JASCT

ニューズレター

平成4年(1992年)3月

第11巻第1号

発行人：松本清一 印刷所：絢文社

第21回 性治療研修会のご案内

日 時 平成4年4月19日(日) AM10:00～PM5:00
場 所 日本赤十字看護大学講堂(東京・渋谷)

第12回日本性科学学会のご案内

開催日時 平成4年9月27日(日)
会 場 四日市市文化会館
学 会 長 亀 谷 謙(小山田記念温泉病院・婦人科)
演題募集 (1) 幼児期からの性教育
(2) 中高年の性教育
(3) 中高年と性
(4) その他・一般演題
演題締切 平成4年6月15日(消印有効)
要旨 200字以内と400字づめ原稿用紙5～10枚をお送り下さい。
事 務 局 〒510-11 三重県四日市市山田町5538-1
小山田記念温泉病院内
第12回日本性科学学会事務局
Tel 0593-28-1260
Fax 0593-28-3040

Vol. 11

No.
1

JASCT 事務局

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

Sexology 事始め (20回 最終回)

セックス詩歌事始め

埼玉衛生短期大学講師 石 浜 淳 美

恋愛の窮極はセックスであり、しょせんは男と女、オスとメスである。古今東西文学、詩歌は恋愛、セックスの文学、詩歌である。セックス文学事始めはすでにのべた。今回は戦後文学の一形式である詩、歌、俳句における事始めについてのべる。

セックス詩事始めは、なんといっても堀口大学のエロティシズムをあげねばならぬ。

「砂浜に唇あてて、貝がらをたづねるあそび、海の匂ひがして、潮みづの味がして」(夕の虹) 佐藤春夫はこれを「お舌で口説く詩」といった。霧島では大変な地震が起っているが彼にはつぎのような詩もある。

「なまめかしき地震、美学の中心、やや急、初期微動、上下動、水平動、最大振幅、振動時間、ゆりかえし、・・・またゆりかえし」(地震)

また和歌には、「わがために春の蚤さへとりへたる看護婦去りて淋しくてならぬ」(昭和20年 齊藤茂吉)

「まぐはひのあとの己れが床の上に主を祈りて寝につく妻は」(昭和23年 吉野秀雄)

戦後物資不足で紙も鉛筆もなくなり、手軽に作れるハングリー文学として、俳句が一般大衆に普及した。一流プロ俳人のなかにも、中村草田男、日野草城といった、文学的セックス俳人が誕生した。

「朝顔の思いをとげしごとしぼむ」(日野草城) 「妹と寝て初かみなりに覚めにけり」(日野草城)

「真昼の湯子の陰毛の光るかな」(西東三鬼) 「はたはたや妹が口吸う山の道」(山口誓子)

「口よせて女は月にまなこ閉ず」(石田波郷) 「菊白しえたる代償ふところに」(鈴木しづ子)

「春の闇妻は牡丹の息を吐く」(橋本夢道)

戦後は無季俳句、字余り俳句、非定型俳句が盛んになった。

「精虫四万妻の子宮へ浮遊する」(橋本夢道) 「ぐっとおし入れるわが下腹から粘液たれる」「ぐっと妻の子宮へ雨のように流れる液体の短い時間を知っていた」(堀井春一郎) 「女陰の中に男ほろびて入りにけり」「天涯や女に陰の毛を与え」

川柳になるともっと直接的である。

「抜けるまでおけば女房もきげんなり」「ひとりでにぬけるまでおきなと妻はいう」

最後に筆者の性愛俳句を三句。

「雪の夜の接吻うくる呼吸をとめ」「労れ果て闇に密柑をまさぐりぬ」「夜の別れ雪きしませて唇合わす」(以上昭和35年頃作)

長らく連載させて頂いたSexology事始めは筆者病気のため一応今回で終りにして頂く。

石浜先生には、昭和61年8月号に第1回“Sexology 事始め”をお願い致しまして、それから5年半という長い間にわたり、ご執筆頂き誠にありがとうございました。

なお次回からは、JASCTカウンセリング室カウンセラー堀一子先生に、ご執筆頂き新しい連載がはじまります。

編集部

連載を始めるにあたって

JASCTカウンセリング室カウンセラー 堀 一 子

JASCTカウンセリング室では、昭和59年開設以来今日までおよそ700例の性の相談に応じてきました。

その相談内容は多岐にわたっていますが、男性ではインポテンスが圧倒的に多く、女性ではワギニスムス、不感症などがあります。その中で近年目立つことは、重症ケースの増加です。例えば、インポテンスといっても結婚したての単なる緊張によるものはむしろ減り、深い内面の問題や相手との複雑な関係が交錯したケースが多くなってきました。今、話題のセックスレスの背景にもこのような難しいものがあるのではないのでしょうか。いずれにしろ、性とは人と人との最もありのままに最も深いところでコミュニケーションする関係です。つまり、性においてはその人の生き方そのものが深く問われることは間違いないと思います。次回からは、このことを念頭におきながら、JASCTカウンセリング室で治療を行った症例を毎回1例ずつ紹介したいと思います。

女性のMasturbationについて

千葉市立病院産婦人科 大川 玲子

Masturbationにはいろいろな定義があると思われるが、ここでは性的快感を得るために自分の性器を刺激することを言う。女性のmasturbationの方法は男性より多様であるが、キンゼイやマスターズ・ジョンソンなどの調査により、クリトリスを刺激する方法がほとんどであり、膣内に物を挿入する人は少ないことが知られている。女性のmasturbationの記述ではハイトレポートが圧巻である。多くの人がその方法や感じなどを詳述しており、学問的価値も高いが、読者が安心したり自己開発の書ともいえる内容である。

性情報が氾濫するわりに、科学的に実証された知見は一般に知れておらず、隣人の性行動についても誤解が多いことは、性について取り組む者ならすぐに気付く問題である。女性のmasturbationもかなり誤解のある事柄であるらしい。先日、思春期の子供を持つお母さんに性の話をする機会を得た。そこでMasters & Jhonsonの、人間の性反応を話題にしたがこれは想像以上にショック療法となったようである。特に女性のmasturbationが、性反応の学習に大切な行動であることに触れ、明確に肯定したことに大きな反応があった。ハイティーンの娘さんがmasturbationをやめられなくて困っていたが話を聞いて安心したという感想もあったが、どちらかという指導的な立場の人もはっきりと肯定する意見を聞いて自信が持てたというような具合であった。masturbationについては北村邦夫氏の昨年の研修会の講演や、著書“現代っ子の性”で感銘を受けたキャッチフレーズ“朝までやってみようmasturbation”がある。男性にしてもmasturbationはある程度後ろめたい行為であり、多くの著書には“悪いことではないがそればかりせずスポーツなどで発散させよう”といったあいまいな記述が多い。そこに不安を感じる少年へのこれは力強い支持であろう。一方北村氏が女の子については、否定はしないという程度の扱いだったことに對し、私は女の子にも同じかそれ以上の肯定を（むしろ声援を）与えるべきだと考える。婦人科研修医のころ尊敬する男性の先輩に、少女の膣外陰炎では“性器を触れさせないように親に注意する。オナニーを覚えてしまうから”と指導されたとき、私はおかしいと思ったが、根拠が今一つあいまいで反論できなかった。北村氏もそれに近いことを述べておられるが、これは意味のないことである。女の子がmasturbationをおぼえて悪い健康上の理由は何一つない。それに耽っては困るという問いには、氏が“朝まで・・・”と男の子に答えたことと全く同じ答えで充分である。男性のmasturbationが、排泄のみでなく、異性との性行動を成り立たせるのに大切な学習の意味も持つことは周知の事実である。女性にとっても、オーガズム体験の早道であることは先に述べたが、性に対して男性よりはるかに抑制的に仕向けられ、主体性の無い女性が、masturbationをすること、しかもそれを肯定的にとらえる意味は大きい。少なくとも性器を他の臓器と同じように自分の体の一部と感じ、自分でコントロールできると感じたり、自分の好みをパートナーに知らせることで、性行動に主体的に関わるきっかけになるであろう。性行動で女性が主体性を取り戻すことは、例えば避妊の知識はあるのに行動化できず望まない妊娠をしてしまう、というありふれた状況を無くすために不可欠の課題であろう。最近では男性のmasturbationがともすると自己に閉じこもり、他者との性愛を避ける弊害につながると懸念されているが、性に対し主体性という点で大きく男性に遅れをとっている女性にとって、masturbationは、課題でこそあれ禁止すべきものではないと考える。

しかしmasturbationは、性的快楽と生殖とが分離した極端な形であり、いずれ女性も男性と同様の問題を抱えることになるかも知れない。マリノウスキーによれば、男女の階級差がほとんど無い母権社会、トロブリアンドの性愛は解放的である。自慰も別に禁止はされないが、子供の遊びといった程度の扱いで重要な行為ではない。キリスト教の影響下で性的快楽を強く抑制された西欧も、性には比較のおおらかな中国や日本でも近世までに女性の自慰の記録はあるが、張り型の説明程度で、より自然な行為としての外陰部の刺激にはほとんどふれていない。極めて男権的な社会の特徴であろうか。フロイドはクリトリスオーガズムを女性の未熟性に位置付けたが、またその重要性も明らかにしたのである。キンゼイ以後市民権を得たかに見える米国でも依然として女性のmasturbationにはタブー性があるようである。しかし多くの調査が女性のmasturbation人口の増加を伝えている。このように女性のmasturbationは極めて文化的な所産と思われるが、現時点では性行動におけるkey wordの一つではないだろうか。

幹事会の活動報告

日赤看護大学助教授 島 村 忠 義

昨年度の理事会において幹事会の設置が決定され、1991年10月17日に第1回幹事会が大川玲子、金子和子、島村忠義の各幹事と野末源一常務理事、本郷元夫事務局長の出席のもとJASCT事務局で開催された。会議の内容は主に、1992年4月19日(日)に開催される研修会のプログラムと日本性科学会雑誌の編集等の問題が討議された。

1991年12月19日、第2回幹事会では前回の研修会のプログラムの具体的な構成・演題構成と演者、時間配分等一の決定研修における会員のアンケートの実施方法が議論された。

1992年1月23日、第3回幹事会では研修会のプログラムの交渉経過と性科学の専門用語集等の作成検討された。

1992年2月20日、第4回幹事会では研修会におけるアンケートの修正、会員全体に送るアンケートの原案検討、ニューズレターの取り扱い方、JASCTにおける研修会の戦略的位置づけ・構成の原案等について検討がなされた。

新 入 会 員

お手数ですが、お手持ちの名簿にご加筆ください。

事務局からのお願い

平成4年度(平成3年10月1日～平成4年9月30日)年会費15,000円をまだ納入されていない方は、よろしくお願い致します。

手数料が無料となります、会の郵便振替用紙を同封しますので、ご利用下さい。

銀行振込みの場合は、横浜銀行青山支店・普通預金918-0042002 JASCTです。

アンケートの葉書を至急ご返送ください

会員名簿の一層の整備と郵便物の確実な発送のため、昨年の9月号のニューズレターとともに、アンケートの葉書をお願い致しました。まだご回答をお寄せいただけていない方は、下記の事項をご記入の上、至急、事務局までお送り下さい。

- ① 氏名・フリガナ
- ② 現住所・電話番号
- ③ 勤務先名称・住所・電話番号
- ④ 郵便物の発送先の希望 自宅あるいは勤務先

届 先 JASCT事務局

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F 長谷クリニック内

ニューズレターへ投稿して下さい

ニューズレターは会員皆様のものです。そこで会員の声ともいべきスペースを作って、お互のコミュニケーションを密接にしてゆきたいと考えております。性に関するご意見、日常活動の様子など、情報交換の場になることを期待しております。どんなことでも結構ですから、お気軽にご投稿ください。

また、ニューズレターに関するご意見やご提案がありましたら、遠慮なく編集部までお寄せ下さい。

届 先 JASCT事務局 編集部

〒107 東京都港区南青山1-1-1

新青山ビル西館3F 長谷クリニック内